

令和5年度文部科学省（大学改革推進事業）

「地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業」採択

「東海地区連携で行う薬剤師不足地域でのアドバンスト実習とそれを活用した薬学生・薬剤師PBL学習プログラムの構築」

連携大学：名古屋市立大学 岐阜薬科大学 静岡県立大学 鈴鹿医療科学大学

【事業の趣旨】

今回の事業は、薬剤師の地域偏在を解消するための大学の教育的な貢献を目標に採択された事業であり、高齢化や人口減少が進み医療人材が不足している地域でのアドバンスト実習を薬学生に体験させ、その地域で滞在してその地域の医療の現状や課題、さらには魅力を発見し、それを「映像コンテンツ」のプログラムとして制作するという課題解決型学習のプログラム実践です。その地域を良く知れば、その地域の人達を良く知れば、地域に根差して医療をすることの重要性や難しさ、そして楽しさ生きがいのようなものを深く理解でき、すぐにその地域での就職にむすびつかなくとも、地域医療の真の魅力を知った薬剤師を輩出でき、それが将来の地域医療につながると考えました。

現在の薬学部の22週間の実務実習では、主に都市部での基本的な薬剤師業務しか体験することができず、足りない医療人材や医療施設を工夫しながら多くの職種が協力しながら地域医療を支えるまさにこれからの社会に必要な医療の実態を体験することはほとんどできません。薬剤師偏在は、このような教育の不備も少なからず要因となっていると考えています。そういう意味でもこのアドバンスト実習は今後の薬剤師教育の新しいモデルにもなり得ると考えています。

【プログラムの内容】（図1. 参照）

1. 医療人材不足地域でのアドバンスト実習

東海4県の連携4大学が1か所ずつアドバンスト実習地域を担当します。

○名古屋市立大学：沖縄県北部地域、○岐阜薬科大学：岐阜県飛騨・高山地域

○静岡県立大学：静岡県川根本町地域、○鈴鹿医療科学大学：三重県尾鷲地域

名古屋市立大学が沖縄を担当するのは、すでにアドバンスト実習を実施してきた実績によるものです。アドバンスト実習は、原則として薬学部で通常の実務実習を5年生で修了した学生が行います。各地域のアドバンスト実習では連携大学の学生が混成で1回5名とし、期間は5日間（月曜日から金曜日）の滞在を予定しています。アドバンスト実習中は大学教員が同行して学生の移動などをサポートいたします。各地域のアドバンスト実習は、令和5年度は年1回を予定していますが、令和6年度、7年度は少しでも多くの学生に体験してもらうため各地域年2回の実習を行いたいと考えております。

2. アドバンスト実習の内容

アドバンスト実習では、実際に医療職や行政職、住民の皆さん等との交流体験を通して、その地域の魅力や医療の状況を多方面から観察・学習できることを目指します。具体的には
○薬局での調剤や服薬指導体験、○在宅支援の同行、○病院での薬剤師業務の体験
○医療・介護施設等でのスタッフの方々との面談 ○行政関係の方々の講義やインタビュー、○住民の皆さんの健康増進イベントへの参加などを予定していますが、各地域の状況や条件などに従い、その地域のご担当者の方々のご意見を良くお聞きして効果的で魅力的なアドバンスト実習を企画できればと考えております。

3. 実習での「映像コンテンツ」制作

このアドバンスト実習の大きな目標は、学生達が体験させていただく地域の魅力や課題を映像で記録して「映像コンテンツ」を制作することです。その地域の環境や暮らし、医療施設の状況など、許可の得られる範囲でビデオカメラに記録し、それを編集して教材を制作します。「映像コンテンツ」では、出来るだけ住民の方々や医療職、行政職の方々の声をインタビューして記録させていただきたいと考えております。

今回のプログラムでは、このアドバンスト実習を体験した学生が各大学で自分達が制作した「映像コ

ンテンツ」を使って2年生や3年生、4年生等の後輩の学生に授業をします。先輩から後輩へ屋根瓦方式で思いや知識を伝えてもらい、次のアドバンスト実習生予備軍を養成します。もちろん授業をした学生達自身も理解が深まると考えられます。また、各県の薬剤師会や病院薬剤師会にもご協力いただき、実習に参加した学生や制作した「映像コンテンツ」を活用して、都市部で働く薬剤師の先生方にも薬剤師の地域偏在の課題を考えてもらい、都市部の薬剤師に山間部など薬剤師の不足している地域のことを知ってもらう研修を予定しております。そのような研修を通して、広く薬剤師の先生方に地域偏在を自分達の課題としても考えてもらえるのではないかと考えております。

【本事業の継続性について】

本事業は、令和5年度から3年間の事業として採択されていますが、3年間で医療人材の不足地域での薬学生の効果的な実習プログラムを開発できれば、4年目以降は、現在、東海地区の薬系8大学が連携して薬学教育の活性化を目標に設置している「東海薬学教育連携コンソーシアム」の新しい教育プログラムとして本アドバンスト実習を東海地区の全薬系大学に広げ、継続していくことは十分可能だと考えております。

【ご協力のお願い】

今回アドバンスト実習を企画した地域は、すでに各大学で研修をおこなったり、実務実習で連携したりした地域を各大学で1か所ずつ責任をもって運営してもらうことになっています。各大学はすでにアドバンスト実習の地域の薬剤師会等と連絡を取り、本プログラムの準備を進めております。

本プログラムは、アドバンスト実習をさせていただく地域の皆様のご協力がなければ実施することができません。薬剤師の地域偏在の課題解消は一朝一夕では難しい課題ですが、大学と地域との連携を深めることで薬剤師業務だけでなく地域の皆様の健康増進等にも寄与できるのではないかと考えております。地域の皆様に本プログラムに積極的にご参加いただきご意見をいただいて、一緒に効果的で魅力的なプログラムを開発して参りたいと切に願っております。新しい医療人材育成プログラムに何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

名古屋市立大学 薬学部
静岡県立大学 薬学部
岐阜薬科大学
鈴鹿医療科学大学

<連絡先 事務局>

東海薬学教育連携コンソーシアム 事務局

地域医療教育センター (名古屋市瑞穂区田辺通3-1 名古屋市立大学薬学部内)

tocenter@phar.nagoya-cu.ac.jp

**東海地区連携で行う薬剤師不足地域でのアドバンスト実習と
それを活用した薬学生・薬剤師学習プログラムの構築**
 連携大学：名古屋市立大学、静岡県立大学、岐阜薬科大学、鈴鹿医療科学大学

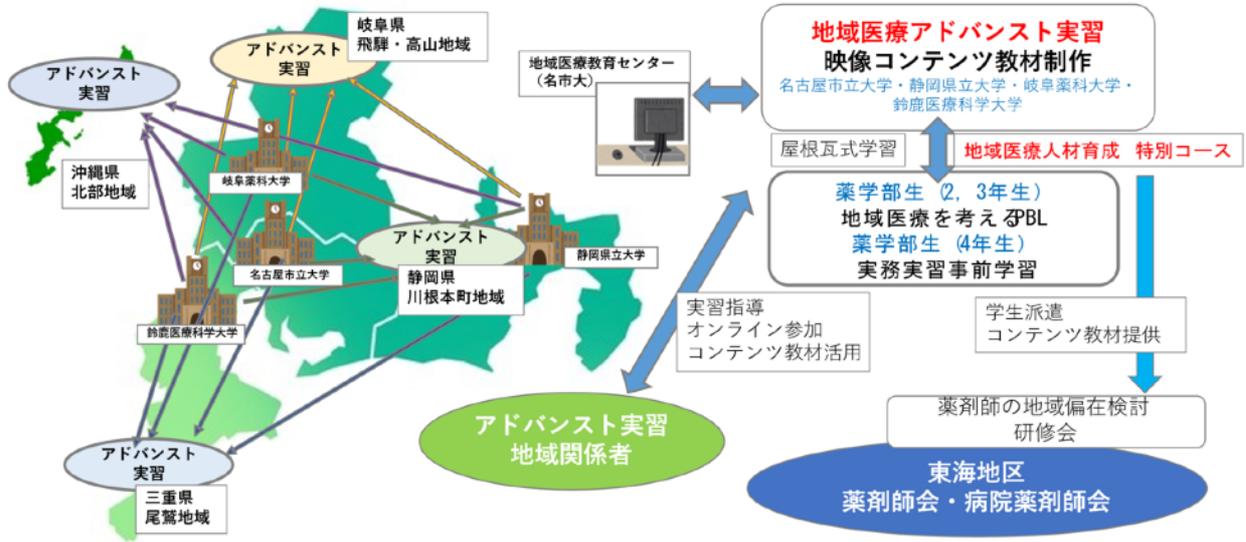


図1. プログラムの概要